平成28年6月26日(日)
朝刊4面
(第3種郵便物認可)
中日新聞

ニュースを問う

愛教大の学校支援員養成課程

貧困に苦しむ子の救いに

土屋　晴康
(刈谷通信局)

広がり続ける〝子どもの貧困〟。不登校や非行の根をたどっていくと、貧困に行き着くことが多く、教師たちだけでは手に負えない状況が学校現場で深刻になっている。

私の中学時代にも、思い当たる出来事があった。

「K君、迎えに来たよ」。学校を休みがちになった級友を誘うために毎朝、通学途中に彼の家に寄っていたのは、担任教師から「朝、迎えに行ってくれないか」と頼まれたからだった。

家も近く、幼いころから公園でよく草野球をした仲だが、彼の服がいつも汚れていたことを子ども心に覚えている。迎えは多くの場合、徒労だった。家に人が居る気配はあるのに、返事はない。玄関には、物が散乱していた。両親が離婚し、別の土地へ引っ越したと聞いたのは、学年が変わってからだった。

担任教師も生徒に任せっきりだったわけではない。放課後に彼の家を訪れているのを何度も見かけた。だが、親が家に上げるのを拒んでいたようだった。

国連児童基金(ユニセフ)の調査では、子どものいる家庭の所得の格差で、先進四十一カ国中、日本は三十四位で下から八番目。私の経験は、今思えば広がり始めた貧困の実態を示す一例だった。

「お金がないことから、いろんな問題が派生している」。愛知教育大の岩満賢次准教授(地域福祉)はそう指摘する。

学校支援員を養成する新課程を国立大で初めて設置する愛知教育大

母子家庭の中には、母親が働きづめで、育児に手がかけられなくなり、食事や着る物が無頓着になってしまう場合もあり、また、仕事のストレスから、在宅時に暴力をふるう母親も報告されている。虐待を隠すため子どもとの面会を拒否したり、仕事で終日家を空けている家庭が増え、教員が家庭訪問で親に面会できないケースも多い。

「いつも同じ服を着ていて、汚れが目立つ。お風呂にも入っていないようだ」「食事を食べてこずにいつも腹をすかせている。授業に集中できていない」など、子どもの前兆現象を教員がとらえていても、時間に制約のある教員だけで個別の家庭に対応するのは難しい。うまくいかないと、真面目な教員ほど自分を追い込んでしまい、休職に至ってしまう。

教師とチームで

貧困が背景にあるこうした問題に文部科学省では、専門的な知識を持つ学校支援員を各校に配置し、教師と対応にあたる「チーム学校」構想を提唱。愛教大では二〇一七年度から、支援員を養成する新課程を国立大で初めて設置する。

隣同士が顔を知らない、コミュニティーが希薄化した都市部では、その家庭がどんな生活を送っているのか、見えにくい。

学校支援員は、忙しい教員に代わって家庭に働き掛けるスクールソーシャルワーカー(SSW)や心理に詳しいスクールカウンセラー(SC)。日本ではなじみが薄いSSWだが、学校に通えない子どもたちのために二十世紀初頭に米国で生まれた。草創期には「訪問教師(visiting teacher)」と呼称されたように、教育と家庭を結ぶのが役割とされる。

保護者とも面談

人間関係の調整役を務めるSSWは、「親と子」だけでなく保護者同士のトラブルの対応まで求められるようになっている。SCも個別の相談だけでなく、虐待など家庭の問題に起因する相談が増えた。日本でもすでに採用している自治体があり、「最近では生徒だけでなく、保護者の面談も担っているようだ」と同大の祖父江典人教授(病院臨床)。ネットでの発言を巡る保護者間のトラブルをSSWが仲裁したり、精神的に不安定な保護者の面談をSCが行う事例が実際にあったという。

SSWは教員と連携し、保護者の相談に乗ったり、生活環境を整えるために行政の福祉のサービスに家庭をつなぐなど、家庭と社会を結ぶ〝調整役〟の役割を担う。学校がチームとして機能するためには「立場を超えて、どれだけ意思疎通が図れるかが重要」と祖父江教授は指摘する。

教育関係者には専門家としてのプライドから、外部の人間を深く学校に入れたがらない場合も少なくない。学校や地域によって、専門職への理解には「ばらつきがある」(同教授)といい、校長や教頭など管理職によるマネージメント機能の強化も、鍵を握ることになりそうだ。

K君の両親は、学校や町内の行事にもあまり顔を見せず、私もよく顔を覚えていない。彼の不登校の背景にあった家庭の問題にまでかかわるSSWのような専門家がいたなら、挨拶もなく、私と彼の関係が途絶えることはなかったかもしれない。

罪のない〝貧困〟に苦しむ子どもたちを、大人たちの手でしっかりとセーフティーネットにのせてやれるような仕組みになるように期待したい。

「ニュースを問う」へのご意見は、〒460 8511 中日新聞編集局「ニュースを問う」係へ。電子メールは、genron@chunichi.co.jp